

みやぎの

4月号

農業普及現場



普及活動標語

思いを形に、あなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

NEWS LETTER No.218 2025.4

紹介内容 (3/1～3/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技术の活用等による生産基盤の強化

① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

- 石巻農改：いしのまき地域の園芸を活発に！園芸特産振興会議を開催！
- 石巻農改：農業法人経営力向上研修会を開催しました
- 石巻農改：寒風の中、直播たまねぎ現地検討会を開催！
- 美里農改：選ばれる職場づくりとは？「農業経営研修会」を開催しました
- 登米農改：内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました
- 石巻農改：石巻地域の農業士会と漁業士会が交流会を開催！
- 石巻農改：令和6年度石巻農業士会研修会が開催されました
- 大崎農改：令和6年度大崎地域の農業法人等の事業承継を考える研修会
- 仙台農改：令和6年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました
- 仙台農改：ワークライフバランス向上研修を開催しました
- 登米農改：米川地区担い手法人設立に向けた専門家指導会が行われました
- 気仙沼農改：農業生産法人の事業承継に関する研修会を開催しました
- 仙台農改：仙台市内の新たないちご狩り農園開の開園！
- 登米農改：新規就農者に対する営農技術の個別指導が行われました！

② 新たな担い手の確保・育成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- 亘理農改：女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まると米セミナー」を開催しました
- 登米農改：新規就農者が先輩農家から技術を学んでいます！
- 登米農改：登米市青年会議所が開催されました
- 美里農改：第6回美里地区みやぎ農業未来塾「農業機械研修：トラクターのセルフメンテナンスを学ぼう！」を開催しました
- 石巻農改：頼もしい次世代の若手たち！石巻4Hクラブが通常総会を開催
- 仙台農改：新規就農者等を参集した現地視察会を開催しました
- 気仙沼農改：令和7年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会と味噌づくり講習会が開催されました
- 栗原農改：令和7年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました
- 大崎農改：大崎地区4Hクラブ通常総会が開催されました

③ 先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

- 大崎農改：JA古川で水稻湛水直播栽培講習会が開催されました

④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 7

- 気仙沼農改：南三陸町でぶどうせん定枝炭化実演会が開催されました
- 亘理農改：名取市のカーネーション栽培におけるIPM実証について情報提供しました

- 気仙沼農改：南三陸町でネギほ場の排水対策を実施しました
 - 仙台農改：梨の天敵ダニ製剤に関する研修会を開催しました！
 - 大河原農改：令和6年度加工用柿研修会が開催されました
 - 仙台農改：富谷市野菜づくり講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：枝もの用クロマツの採苗研修会が開催されました
 - 美里農改：JA新みやぎみどりの地区ほうれん草部会通常総会が開催されました
 - 登米農改：ばれいしょの種芋消毒が行われました！
 - 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会通常総会が開催されました
 - 仙台農改：JA新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と総会が開催されました
 - 大河原農改：たまねぎ晩秋まき栽培の定植が進んでいます！
 - 大河原農改：たまねぎに関する動画「環境にやさしい栽培編」を公開！
- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 登米農改：令和6年産稲作の総合検討会が開催されました
 - 美里農改：高品質大豆生産を目指す！組合員一丸で次年度に向けた課題を洗い出し
 - 登米農改：今年の水稲作業に向けて、育苗の説明を行いました
 - 大河原農改：令和7年産麦現地検討会が開催されました
 - 美里農改：「吟のいろは」栽培研修会が開催されました

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
- 大崎農改：「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」（売り場環境改善編）を開催
 - 大崎農改：手作り味噌にチャレンジ
 - 大崎農改：農村生活研究グループの総会が開催されました
 - 美里農改：小牛田地域精進料理の会が定例会を開催しました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14
- 亘理農改：令和7年サンサンメイトの研修会が開催されました
 - 大崎農改：グリーンな栽培体系への転換サポート事業検討会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○いしのまき地域の園芸を活発に！園芸特産振興会議を開催！

令和7年3月3日

石巻農業改良普及センター



令和7年2月18日に本年度最終の石巻地域園芸特産振興会議を開催し、園芸振興に係る活動実績や新年度計画について、JAいしのまき及び東松島市の担当者と検討しました。

検討後、近年被害が拡大している「タバココナジラミ」による「トマト黄化葉巻病」の拡大抑止や「河北せり」の産地維持について意見を交わしました。

普及センターでは、令和7年度から「タバココナジラミによるトマト黄化葉巻病の発生抑制」のプロジェクト課題に取り組むことから、関係機関からの意見や協力についてお願いした。

園芸生産の現場では、担い手不足や資材高騰、夏の異常高温、病害虫発生期間の長期化など、厳しい環境下にありますが、普及センターでは関係機関と協力し、今後も石巻地域の園芸振興を進めていきます。

○農業法人経営力向上研修会を開催しました。

令和7年3月3日

石巻農業改良普及センター



令和7年2月7日、JAいしのまき農業情報センターで、農業法人経営力向上研修会を開催しました。「農業法人の未来を切り拓け！激変する経営環境に立ち向かう」をテーマに、YACコンサルティング顧問古高伸一先生から講演をいただきました。

内容は、①農業法人の持続的成長と経営戦略、②人材確保と育成の重要性、③最新技術による生産性向上、④農業経営の新たなビジネスモデルの4つのポイントについて講演をいただきました。

講演終了後は、個別相談時間を設け、各法人毎の悩みや展望を講師に直接投げかけてアドバイスを頂きました。話は盛り上がり設定時間では足りない程でしたが、検討を深める良いきっかけになったようです。

普及センターは今後も、問題が解決できるよう継続して支援して行きます。

○寒風の中、直播たまねぎ現地検討会を開催！

令和7年3月3日

石巻農業改良普及センター



令和7年2月19日に、直播たまねぎに取り組んでいる農業法人のほ場を会場に、JAいしのまき主催による今年度3回目の直播たまねぎ現地検討会が開催され、東松島市内3法人のほか、JAいしのまき園芸課や東松島営農センター、全農みやぎ、機械メーカー等が出席しました。

現地検討会では、休眠していたたまねぎが越冬し、新葉を出していることを確認しました。「苗立ち率」は半分程度で、不十分ではありますが、昨年よりも向上しています。

現地ほ場確認後は、東松島営農センターを会場に「関係機関会議」を行い、全農みやぎと普及センターからそれぞれ雑草や病害虫防除、機械導入に係る補助事業の情報を提供しました。

普及センターではJAいしのまきと連携して、直播たまねぎの安定生産を推進していきます。

○選ばれる職場づくりとは？「農業経営研修会」を開催しました

令和7年3月6日

美里農業改良普及センター



美里農業改良普及センターでは令和7年2月13日に「～選ばれる・辞めない職場づくりとは～」をテーマに農業経営研修会を開催しました。当日は暴風警報が発令されるなど荒れた天気になりましたが、農業法人や関係機関等から約17名が参加しました。

研修会は特定社会保険労務士の松倉恵子先生を講師に迎え、若者が離職する理由や職場におけるハラスメントなどの課題、雇用した後の人材育成の考え方など、雇用する上で整備しなければならない職場環境・規則などの説明がありました。

また、Z世代と言われる若者の考え方の特徴についても、「役に立っている」という実感が欲しい、「〇〇ガチャ」と言われるように上手くいかなかった場合は自分ではなく周りに原因があると考える傾向がある、などの話がありました。そのため、採用する場合は、将来的にはどのような人になって欲しいかを考えながら選考し、相手との関係が一方的にならないよう、双方向でコミュニケーションをとれる職場づくりが必要とアドバイスいただきました。

参加者からは、「ハラスメント対策など、具体的に説明があり参考になった。」などの感想が寄せられました。

法人の将来を見据え、雇用を考えている法人は増えています。一方、少子高齢化が進み、採用状況は「売り手市場」で、農業のみならず新規学卒就業者の早期離職が課題になっています。このことから、農業においても若者に就職してもらえ就業環境づくりが求められています。

普及センターではこれからも農業法人等の経営の発展を目指し、各種課題の解決に取り組んでいきます。

○内ノ目地区担い手法人設立に向けた発起人会が開催されました

令和7年3月7日

登米農業改良普及センター

登米市東和町の内ノ目地区は農地整備事業の活用を希望し、令和8年度採択に向けて取り組んでいます。具体的には、事業目標年度である令和17年度までに、新規に法人を設立し、担い手となる1法人に農地を集積・集約するとともに、新たに高収益作物を作付けする計画です。このため、当普及センターでは内ノ目地区での法人設立と高収益作物試作の支援を行うこととしています。

令和7年2月26日（水）に、地区担い手による発起人会が開催され、関係機関も含めて8人が出席しました。今回は目標とする法人像や法人自体の態様、地代の金額設定など、広範な話し合いが行われました。今後は3月に予定されている発起人会でさらなる検討を進めるとともに、高収益作物の試作準備を行うこととしています。

普及センターでは、今後も関係機関と連携し、内ノ目地区地域営農構想の実現に向けて支援していきます。

○石巻地域の農業士会と漁業士会が交流会を開催！

令和7年3月10日

石巻農業改良普及センター



令和7年2月13日に、石巻農業士会と宮城県漁業士会中部支部との交流会が開催されました。今年は初めて4Hクラブ会員も参加しました。

昨年度の交流会は農業現場の視察と作業体験を実施しましたが、今年度は漁業現場において、カキ工場見学とカキ剥き体験、海苔の加工場見学を行いました。

農業者にとっては、どちらの視察先も普段見ることができない場所で、説明される作業や機械も初めて見聞きすることばかりで貴重な体験となりました。4Hクラブ会員も、初めて目にする漁業現場に驚きや発見も多くあり、農業士、漁業士と情報交換する良い機会を得ることができました。

視察後の懇親会では、さらに交流を深め、情報・意見交換が行われる中で早くも来年度の交流会の案も出ていました。

このような交流を機に更なる活動の活性化と発展につながるよう今後も農業士と4Hクラブの活動を支援していきます。

○令和6年度石巻農業士会研修会が開催されました

令和7年3月10日

石巻農業改良普及センター

令和7年2月19日に、石巻農業士会研修会が開催されました。

研修会では、温室効果ガス（GHG）削減の取り組みを後押しするJ-クレジット制度について、株式会社フェイガーの松谷達馬氏から制度活用の説明をいただきました。講師からの一方的な話だけでなく、申請方法等の具体的な質問が多く出されて話し合うことで、実際の活用場面での疑問点が解消され理解が深まった様子でした。

今後取り組みが増加すると予想される当制度について、農業士が率先して研修することで、自らの農業経営に活かすとともに後継者育成、地域振興につながることを期待されます。

○令和 6 年度大崎地域の農業法人等の事業承継を考える研修会

令和 7 年3月12日

大崎農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 28 日、事業承継を検討している大崎地域の農業法人等を対象に「令和 6 年度大崎地域の農業法人等の事業承継を考える研修会」を開催しました。

全国的に生産年齢人口の減少が問題となる中で、農業の担い手確保はさらに深刻で重要な課題です。そこで、地域外から後継者を育成・確保し、事業承継に取り組んだ農業法人の事例を学ぶことで、地域農業の維持と発展の一助とすることを目的に開催しました。

先進事例として、角田市の株式会社館島田 D e r o 大泉代表取締役と小野相談役から、農事組合法人から株式会社に組織変更することで、担い手確保と地域農業の維持を図った経緯と具体的な手続きなどについて紹介していただきました。

出席した法人等からは、それぞれが抱える問題や、担い手の確保方法など、踏み込んだ質問や意見交換が行われました。大泉代表取締役や小野相談役からは、地域での話し合いを早期に始めることが重要であると力強いアドバイスがありました。さらに、研修会終了後は、連絡先を交換する姿も見られ、今後の交流にも繋がった有意義な研修会となりました。

普及センターでは、引き続き、地域農業の維持発展のため、農業法人等の課題解決を支援していきます。

○令和6年度仙台地域農業普及活動検討会を開催しました

令和 7 年3月12日

仙台農業改良普及センター



仙台農業改良普及センターでは、今年度第 2 回目となる仙台地域農業普及活動検討会を令和 7 年 2 月 7 日（金）に開催しました。この検討会は、外部有識

者等から普及活動に対する意見や評価をいただく場として実施しています。

今回は、1 年の総括として、4 つのプロジェクト課題の活動状況について、各課題リーダーから報告しました。続いて、令和 7 年度普及指導計画（案）について、プロジェクト課題及び重点活動の概要について説明しました。

検討委員からは、「次世代の担い手育成など、今後も持続可能な体制づくりとなるよう支援をお願いしたい」「来年度の計画は、どの課題も今の農業の軸になる取組だと思ふ」等の評価をいただきました。

普及センターでは、農業者や地域農業の課題解決に向け、いただいた意見や評価を参考に、関係機関と連携しながら普及活動に取り組んでまいります。

○ワークライフバランス向上研修を開催しました

令和 7 年3月13日

仙台農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 26 日に、多様な人材の活用や仕事と家庭の両立を図る取り組みを実践している農業経営体の事例を学ぶ「ワークライフバランス向上研修」を開催し、女性農業者や農業法人の経営者、従業員、新規就農者など 32 名が参加しました。研修は、始めに、株式会社みらいファームやまが経営する「了美ヴィンヤード&ワイナリー」の施設見学を行った後、同社取締役の早坂美代子氏を講師に迎え、「多様な人材活用とワークライフバランスについて」と題してご講演いただきました。経営者・女性農業者としてプライベートと仕事をどのように両立したか、御自身の経験も交えた内容で参加者も興味深く話を聞いていました。

講演後は昼食交流会として、株式会社みらいファームやまが運営する「了美 Wine&Dine」にて、県産食材を用いた料理を楽しみながら、参加者同士で交流を深めました。

交流会終了後は、数名ずつのグループに分かれた意見交換会を行い、講演の感想や、参加者自身が考えるワークライフバランスについて、活発に意見が交わされました。

参加者からは「ワークライフバランスという言葉へ堅苦しさを感じていたが、講演を聞き、自分が楽しく思う時間を作ればいいと気づくことができた」等の感想をいただきました。

普及センターでは、女性農業者をはじめ多様な人材が活躍できるように、今後も研修会等を開催して資質向上を支援していきます。

○米川地区担い手法人設立に向けた専門家指導会が行われました

令和 7 年3月14日

登米農業改良普及センター



登米市東和町の米川地区は、令和 6 年 9 月に事業採択された農地整備事業地区であり、事業目標年度である令和 16 年度に向けて、担い手 1 法人に農地を集積・集約化し、整備農地の一部に、新たに高収益作物を作付けする計画としています。

これまで、担い手法人設立に向けた発起人会での営農形態等の検討や具体的な法人経営を学ぶための先進事例視察研修等を実施してきた中で、発起人会では会長の経営する工務店法人を定款変更して担い手法人とする方向でまとまってきました。このため、令和 7 年 3 月 7 日に宮城県農業経営・就農支援センターより、飯川洋一司法書士を派遣していただき、定款変更に向けた指導会が開催されました。

指導会では、会長や土地改良区等からは工務店法人の構成員や担い手法人の期待される役割等について具体的な説明を行い、それらの内容に対応できるような定款の変更記載例について後日指導をいただくこととしました。

普及センターでは今後も関係機関と連携しながら米川地区の担い手を支援していきます。

○農業生産法人の事業承継に関する研修会を開催しました

令和 7 年3月17日

気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 10 日、気仙沼市階上地区で水稻・大豆を生産している株式会社階上生産組合を対象に事業承継に関する研修会を当法人の事務所で開催しました。

講師のすずき労務経営コンサルタント代表鈴木大輔氏から、事業承継にかかる注意点や生産組合の経営分析結果等の説明をいただいた後、事業承継に向けた話し合いを行いました。

鈴木講師からは、スムーズな事業承継には経営理念が重要であり、事業承継の計画書を作成することが大事であるとのアドバイスがありました。

普及センターでは、これからも地域の主要な担い手の経営安定に向けた支援をしていきます。

○仙台市内の新たないちご狩り農園開の開園！

令和 7 年3月18日

仙台農業改良普及センター



株式会社まちワクファーム（仙台市泉区、代表取締役 結城創）が、これまでのきゅうり等の栽培に加え、新たに県事業を活用していちご栽培を開始し、観光いちご農園を 3 月 1 日より開園しました。5 品種のいちご栽培に取り組み、農福連携により栽培管理を行っています。このほか、仙台管内では、JR フルーツパーク仙台あらはまや、株式会社一莓一笑松森農場でも、観光いちご園を営業しています。また、仙台ハーベストビレッジ（仙台市若林区）に隣接する株式会社ベリープラネット（代表取締役 深沼陽一）は、今期からいちご狩りを本格オープンし連日満員となる盛況ぶりで、観光農園に特化した施設ではインバウンド需要も取り込み多くの外国人客で賑わっています。

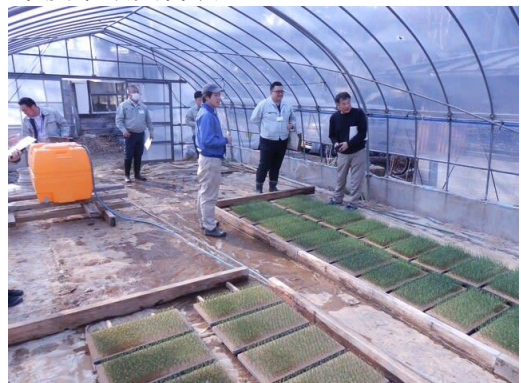
仙台管内では、5 つのいちご農園が新たな観光資源として、国内外の観光需要を取り込み、地域の賑わいを創出することが期待されます。各農園とも、ホームページや SNS を活用した情報発信を積極的に行っており、来場者の利便性の向上を図っていますので、最新情報を確認の上、来場をお願いします。

普及センターでは、新たなビジネスモデルに挑戦する農業法人等に技術・経営の面から引き続き支援を行ってまいります。

○新規就農者に対する営農技術の個別指導が行われました！

令和 7 年3月19日

登米農業改良普及センター



登米市では、営農技術の向上を目指す新規就農者に対して、多年の経験と卓越した技術・技能を有する「登米農業マイスター」派遣による個別指導を実施しています。

令和7年3月11日に、今年度就農したねぎの栽培に取り組んでいる新規就農者に対してマイスター巡回指導が行われました。今回は、新規就農者のねぎ苗の生育状況やほ場の準備状況等についてマイスターに確認していただき、改善点や今後の作業を行う上での注意点など詳しく説明していただきました。

マイスターからは、苗の生育が遅れている旨の指摘があり、健苗育成のための温度管理や追肥等の実施、定植に向けたほ場準備など具体的な指導があり、新規就農者は今後の管理方法について理解が深まったようで活発な情報交換が行われていました。

普及センターでは、今後も市やマイスターと連携しながら新規就農者の営農技術向上を支援していきます。

②新たな担い手の確保・育成

○女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まるごと米セミナー」を開催しました

令和7年3月6日

亘理農業改良普及センター



令和7年2月6日に、岩沼市のハナトピア岩沼を会場に当普及センター管内の女性農業者9人が参加し、女性農業者ステップアップ講座「学んで、食べて、作って、まるごと米セミナー」を開催しました。

今回のセミナーは、「米」をテーマに本県における米の生産・流通の状況や歴史、栄養成分等についてのミニ講座のほか、米4品種（ひとめぼれ、だて正夢、金のいぶき、つきあかり）の食べ比べや、米粉を活用したスイーツ作り（いちごゆべし、ココアゆべし、スティッククラッカー）の実習を行いました。参加者のほとんどは、水稻を栽培しており、米を主食としている方が大半でしたが、「試食した米の中では、「ひとめぼれ」以外はなじみがなく、初めて食べた」という参加者が多く、特に「金のいぶき」に対して関心が集まっていました。

スイーツ作りでは、これまで交流機会がなかった女性農業者同士が、和気あいあい情報交換しながら、作業する姿が見られました。

女性農業者は、地域農業の発展において重要な役割を担っており、今後も多様な分野において活躍が期待されています。普及センターでは、今後も女性農業者が自信を持って経営や組織活動に参画するため

の支援を行っていきます。

○新規就農者が先輩農家から技術を学んでいます！

令和7年3月7日

登米農業改良普及センター



今年度、果樹・野菜部門で就農した新規就農者が「登米農業マイスター制度」による個別技術指導を受けています。「登米農業マイスター制度」とは、新規就農者の早期の生産技術習得や経営安定化等を目的に、地域の熟練農業者を登米マイスターとして新規就農者のもとへ派遣し、個別技術指導により管理技術等について学ぶ登米市独自の事業です。

令和7年2月13日（木）にマイスター巡回が行われました。今回は迫町のアスパラガスを生産しているマイスターのほ場を見学し、栽培上注意する点について詳しく説明していただきました。マイスターからは肥培管理などについての資料も提供していただき、新規就農者も栽培への理解が深まったようで活発な情報交換が行われていました。

次回は3月中旬に開催される予定です。普及センターでは、今後も市やマイスターと連携しながら新規就農者の技術向上を支援していきます。

○登米市青年会議が開催されました

令和7年3月10日

登米農業改良普及センター



3月1日に登米市農村教育青年会議が開催されました。本会議は登米市4Hクラブの活動の一環として、青年農業者が4Hクラブなどの日々の活動を通じて得た成果を互いに発表・情報交換し、各自の農業経営の理解を深めるとともに新たな知見を得ることを目的とするものです。

当日は4Hクラブ員2人が意見発表を行い、現在の経営概要と今後の展望、4Hクラブで今後行いた

いことなどを自分の考えと共に発表しました。
当普及センターは今後も登米市4Hクラブの活動を支援してまいります。

○第6回美里地区みやぎ農業未来塾「農業機械研修：トラクターのセルフメンテナンスを学ぼう！」を開催しました

令和7年3月10日

美里農業改良普及センター



令和7年3月4日(火)にヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社東北物流センター(大崎市古川)を会場に、若手農業者を対象とした第6回美里地区みやぎ農業未来塾を開催しました。

今回は、農作業で最も使用頻度の高いトラクターに着目し、正しいセルフメンテナンスの方法について、ヤンマーアグリジャパン株式会社東北支社の阿部課長を講師に、講義及び実習を行いました。

はじめに、農作業安全について実際の事故事例や事故防止対策などについてお話しいただき、農業機械の公道走行に係る法令について講義いただきました。

次に、セルフメンテナンスのポイントについて、実際にトラクターのエンジン部分等を見ながら、適切なオイル等の交換時期、タイヤや配線の摩耗程度の確認ポイントなどについて教えていただきました。

参加者は、テキストとトラクターを見比べながらメンテナンス手順を確認し、実習終了後にも質問をするなど、熱心に研修を受講していました。

普及センターでは、今後も未来塾の開催を通して若手農業者の栽培技術向上等を支援していきます。

○頼もしい次世代の若手たち！石巻4Hクラブが通常総会を開催

令和7年3月11日

石巻農業改良普及センター



令和7年3月4日に、石巻地区4Hクラブ連絡協議会の令和7年度通常総会が開催されました。

今回は、令和6年度の事業報告や令和7年度の事業計画等について審議され、議題は全て全会一致をもって承認されました。

令和6年度は久しぶりの県外視察や、漁業士との交流、ライフプランセミナーへの参加や、合同庁舎での販売会「青空市」が地域住民の方々にも認知され始める等、充実した活動を行うことができました。クラブ員らは非常に前向きに、クラブ運営に取り組んでいます。

令和7年度も、県外視察はもちろん、外部販売会への参加を検討する等、積極的に活動していく予定です。

当普及センターでは、将来の地域の担い手となる青年農業者への活動支援を続けていきます。

○新規就農者等を参集した現地視察会を開催しました

令和7年3月11日

仙台農業改良普及センター



令和7年3月5日に、みやぎ農業未来塾 経営者養成講座「経営発展を実現した独立・自営就農事例等視察会」を開催し、講師を含め11名の農業者・就農希望者が参加しました。

今回は、就農後早期での経営の安定化に向けた知識の習得を図るため、仙台市内の就農1年目の認定新規就農者と、就農8年目の認定農業者のほ場を視察訪問しました。

1か所目に訪問した認定新規就農者様は、農業法人での勤務経験を生かしてねぎ栽培に取り組みされており、参加者からは栽培品種や作型、育苗培土の種類に至るまで、栽培に関する細かな質問が挙がっていました。

また2か所目に訪問した認定農業者様は、独立就農後に着実に経営を発展させ、就農後7年目で認定農業者となられており、規模拡大の経緯や従業員雇用などに関するご説明をいただきました。

参加した方からは「栽培時の雑草防除に関して参考になった」、「名前を聞いたことがあった生産者と初めて会えて良かった」といった感想が聞かれました。

また今回は、仙台市内だけでなく黒川郡の生産者も参加し、同じ栽培品目でも、周辺環境が異なる方々同士での情報交換もできました。

普及センターでは、今後も積極的に農業者同士の交流を進め、新規就農者の経営の安定化に向けて支援してまいります。

○令和7年度気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会通常総会と味噌づくり講習会が開催されました

令和7年3月13日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼地区生活研究グループ連絡協議会の令和7年度通常総会が令和7年3月7日に開催され、グループ員19人が参加しました。上程された議案全てが承認され、新しいスタートを切りました。

総会終了後には「おいしい味噌を食べたい」というグループ員の要望を受けて、米麴たっぷりて美味しいと評判の高い味噌加工販売を行っている南三陸町のぬくもり工房を講師に味噌づくり講習会が開催されました。茹でた大豆を形がなくなるまで手で潰した後、米麴や塩を混ぜるところまでの作業を行い、その後、講師から自宅に持ち帰った後の手入れ（管理）について説明が行われました。グループ員は、秋には食べられると聞き、完成を楽しみにしている様子が伺えました。

普及センターでは、これからも地区協議会の活動を支援していきます。

○令和7年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催されました

令和7年3月17日

栗原農業改良普及センター



令和7年3月12日（水）に、宮城県栗原合同庁舎会議室で、令和7年度栗原市生活研究グループ連絡協議会の通常総会と研修会が開催され、41人が参加しました。

通常総会では、令和6年度の事業を振り返り、令和7年度の活動に向けて計画を確認しました。

研修会では、宮城県環境生活部共同参画社会推進課の塩谷主任主査を講師に招き、「地域安全教室～防犯意識を高めましょう～」と題して、特殊詐欺の種類や手口、家庭や地域の防犯対策についてお話いただ

きました。参加者からは、「栗原市内の事例を聞き、他人事でないと感じた。」「個人だけでなく、地域・家庭で意識を高めたいと思った。」などの声が聞かれました。

普及センターでは、今後も同協議会の活動を支援していきます。

○大崎地区4Hクラブ通常総会が開催されました

令和7年3月24日

大崎農業改良普及センター



4Hクラブは、農業技術等の改善・研究活動や同世代の農業者の仲間づくりを行っている20代から30代の青年農業者の全国的な組織です。そのうち、大崎管内の青年農業者で組織された大崎4Hクラブは、将来の地域農業の担い手として期待される青年農業者13人で活動しています。

当クラブでは、令和7年3月18日に通常総会を開催しました。来年度は活動テーマを「次世代農業者とのつながり拡大」とし、4Hクラブの広報活動の実施や関係機関・団体との連携を強化していくこととなりました。クラブ員からは、これまでどおり、和気あいあいと楽しく活動していきたいとの発言もあり、今後も活発に交流していくことが期待されます。

普及センターでは、引き続き、クラブ活動を支援していきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○JA古川で水稻湛水直播栽培講習会が開催されました

令和7年3月10日

大崎農業改良普及センター

JA古川は3年前から乾田直播の取組を強力に推進し、令和6年産の作付面積は60haを超えました。その一方、乾田直播の取組困難な中山間地や小區画ほ場の生産者から湛水直播の取組に関する支援要望が集落座談会で多く寄せられたことから、湛水直播初心者でも安定栽培が期待できる「リゾケアXL」を主体とした栽培講習会が開催され、15名ほどの生産者が参加しました。宮城県古川農業試験場の研究員から各種湛水直播栽培の特徴と留意点の説明を受けた後、開発元のシンジェンタジャパン株式会社の担当者から「リゾケアXL」の詳細な特徴と利点の説明を受けました。参加者は、高低差があるほ場にも適用でき、可、湛水状態でも出芽可能なため、初期除

草への対応に優れること、また水管理の柔軟性、多様な播種機への対応などの利点などに関心を寄せていました。

④園芸産地の育成・強化支援

○南三陸町でぶどうせん定枝炭化実演会が開催されました

令和 7 年3月4日

気仙沼農業改良普及センター



南三陸町の南三陸大粒ぶどう協議会では、環境にやさしい栽培の実施を会の要領として定めており、農薬の使用削減や町内の未利用資源を有効活用した土づくり等を行っています。この取組をさらに強化するため、これまで焼却や野積み処分されていたぶどうのせん定枝を炭（バイオ炭）にして土壤に施用する取組を令和 7 年度から実施することになっています。この取組は、せん定枝に含まれる炭素を炭にして長期間土壤中に貯留させることで、温室効果ガス排出量を削減する効果が期待できます。

2 月 14 日にせん定枝炭化実演会が町内果樹園地を会場に開催され、無煙炭化器を使った炭化方法や取組の効果について学んだほか、消防署と町環境対策課から実施前の届出や火災防止、周囲への煙や臭いなどに注意する等の指導を受けました。参加した会員からは、「これまで処分に困っていたせん定枝を有効活用できる良い取組だ」などの前向きな声が多く出されました。

○名取市のカーネーション栽培における IPM 実証について情報提供しました

令和 7 年3月5日

亘理農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 21 日に名取市高柳集会所において、名取市花卉生産組合の通常総会が開催されました。その中で、令和 6 年度の事業の一環として取り組まれたカーネーション栽培における IPM 実証について当普及センターから情報提供しました。

この実証は、赤色防虫ネットのハウス開口部への設置と光反射資材等のマルチ施用を組み合わせるアザミウマ類の効果的な防除体系の検討と、併せてマルチ施用による夏季の地温抑制による開花への影響を確認したものです。この結果から、赤色防虫ネットや光反射資材のマルチ施用のアザミウマ類のハウス内への飛来抑制や、光反射資材マルチの地温抑制に対する有用性が確認されました。

当普及センターでは、今後とも生産改善の取組を支援していきます。

○南三陸町でネギほ場の排水対策を実施しました

令和 7 年3月11日

気仙沼農業改良普及センター



株式会社グリーンファーマーズ・宮城は、南三陸町で約 8.5ha のほ場でネギの周年栽培に取り組んでいますが、一部の排水不良ほ場では、ぬかるみにより管理機が入らない、湿害により病害が発生するなどの課題があります。そこで、令和 7 年 2 月 20、21 日に宮城県農業・園芸総合研究所の協力のもと、大沼地区のネギほ場にて、明きょとカットドレーンを組み合わせた排水対策を試験的に実施しました。

普及センターでは、今後定期的にほ場を巡回し、排水対策の効果検証を行いながら、ネギの安定生産を支援していきます。

○梨の天敵ダニ製剤に関する研修会を開催しました！

令和 7 年3月11日

仙台農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 27 日、来年度から利府町で天敵ダニ製剤への助成事業が始まることを受けて、J A 仙台利府支店を会場に利府梨部会員を対象として研修会を開催したところ、16 名が出席しました。この研修会は天敵ダニ製剤を導入して果樹ダニ類の防除を行っている生産者やこれから導入を考えている生産者に対して、天敵ダニ製剤に対する理解を深めることを目的に実施しました。

農業・園芸総合研究所で天敵ダニによる防除を研究している園芸環境部の駒形技師から「天敵ダニ製剤の導入にあたって注意すべき点」として、生理・生態に関する基本的な内容を講義しました。

また、病害虫防除所の伊藤技術主幹から「昨年の病害虫防除を振り返って」と題し、県内の梨病害虫の発生状況と近年問題となっている害虫の発生等について説明を行いました。

さらに、来年から利府梨の防除暦に加わった「ダニオーテフロアブル」を販売する日本曹達株式会社よりこの商品の特徴や使用上の注意に関する情報提供いただきました。

今回の研修会は、病害虫防除に特化するテーマに専門性の高い内容でしたが、参加者は熱心に聴講している様子でした。今後も普及センターでは、利府梨の生産振興に向けて支援を継続してまいります。

○令和6年度加工用柿研修会が開催されました 令和 7 年3月14日 大河原農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 12 日、柿のせん定を中心とした「加工用柿研修会」が丸森町で開催されました。当日は、県農業・園芸総合研究所果樹チーム職員を講師に招き、町内 3 園地で令和 7 年産に向けた、加工用原料柿のせん定や栽培管理の留意点等についてご指導をいただきました。

どの園地も高齢化や作業上の安全から、樹高を低く抑えようと努力していますが、いかに収量を下げずに樹高を低くしていくかが長年の課題となっています。こういった課題を解決するため、丸森町では、昨年、ジョイント栽培園地を実証ほとして設置しました。今回、実証ほも視察園地に加えたところ、参加者の多くは初めて見る栽培方法だったため、関心が高く、多くの意見や質問が交わされました。

丸森町を中心とした干柿生産は、原料の蜂屋柿が凍霜害や変形果の影響で、ここ数年、生産量が安定しない状況が続いていますが、価格は全般的に高値で取引され、生産者のかき栽培への意欲は高まっています。

普及センターでは、凍霜害対策に万全を期すよう声掛けするとともに、引き続き、情報提供に努めています。

きたいと考えています。

○富谷市野菜づくり講習会が開催されました 令和 7 年3月14日 仙台農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 7 日、富谷市富谷中央公民館を会場に、富谷市主催で「野菜づくり講習会」が開催されました。この講習会は、富谷市の市民農園利用者や今後利用を希望する市民を対象に行われ、9 人が参加しました。

当普及センター職員が講師となり、「野菜の育て方について」と題し、土づくりや春に作付けする野菜の栽培方法、病害虫防除など、基本的な内容を中心に説明を行いました。講習中は熱心にメモを取る姿や、講習後も多くの質問が出されるなど、これからの作付けに向けて意欲が高まったようです。普及センターでは、今後とも講習会での指導など、県の園芸振興に向けて活動してまいります。

○枝もの用クロマツの採苗研修会が開催されました 令和 7 年3月17日 気仙沼農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 13 日、南三陸町において県主催による枝もの用クロマツ採苗研修会を開催しました。

研修会には、宮城県クロマツ研究会員 6 人、県関係者 7 人の合計 13 人が参加しました。

南三陸町で枝もの用クロマツの生産に取り組んでいる株式会社南三陸 Pine Pro の後藤社長が講師となり、採苗作業の注意点、作業の流れについて説明されました。後藤社長からは、「苗を掘上げたら根を乾かさないようにする」、「定植に適した根の長さにカットするが、切り過ぎに注意する」等、具体的なポイントの説明がありました。

また、参加者からは、「根を切る理由」、「掘り上げた苗の管理方法」等の質問が出され、後藤社長の回答に納得した様子でした。

県では、枝もの用クロマツ生産を拡大するため、今後も研修会等を開催することにしていきますので、興味のある方は参加してみませんか。

○JA新みやぎみどりの地区ほうれん草部会通常総会が開催されました
令和 7 年3月19日
美里農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 18 日（火）、J A 新みやぎみどりの地区ほうれん草部会の通常総会が開催され、生産者、J A、市場関係者などが出席しました。各議案が審議され、すべて承認されました。総会の中では、夏季の高温による生育不良や、生産者の高齢化に伴う作付面積の減少が課題として挙げられ、これまで行ってきた土づくりや萎凋病対策に加え、今後は高温対策にも重点的に取り組むことが検討されました。

また、総会後には普及センター職員が講師となり、土壌診断の結果に基づいて、部会全体の傾向や課題について説明を行い、個別に土壌診断結果の解説をしました。生産者からは、緑肥などを活用した土づくりや、今後の高温対策について活発に質問が出され、栽培技術向上への意欲が感じられました。

普及センターでは、引き続き持続可能なほうれん草生産に向けて技術支援を行っていきます。

○ばれいしょの種芋消毒が行われました！
令和 7 年3月21日
登米農業改良普及センター



3 月 11 日、J A みやぎ登米南部園芸センターで、加工用ばれいしょの種芋消毒が行われました。

箱で届いた種芋 1,900 kg を登米ぼてと組合の組合員、J A 職員、カルビーポテト株式会社担当者らで、ネットやコンテナに移し、消毒層に漬けていく作業が行われました。全員で協力して作業することで、テンポよく消毒作業が進みました。

消毒された種芋はその後、組合員それぞれが持ち

帰り、適切な温度管理のもと浴光育芽を行って 3 月末～4 月初め頃に定植されます。カルビー担当者からは、今後春先の気温が高くなることが予想されるため、定植までの間、必要に応じて冷暗所で保管するよう話がありました。

普及センターでは、今後も組合の活動をはじめ、ばれいしょ生産者のサポートに力を入れて取り組んでまいります。

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会通常総会が開催されました
令和 7 年3月21日
美里農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 25 日火曜日、J A 新みやぎ仙台小ねぎ部会通常総会が開催され、生産者、J A、涌谷町、市場関係者等が出席しました。最初に令和 6 年に収量や品質で好成績を収めた生産者の表彰が行われ、その後、各議案が審議され、全て承認されました。

総会の中では令和 6 年の販売実績について、夏季の高温等の影響で前年の 96% の販売数量になったものの、販売単価が上がったことで前年比 112% の販売金額になったことが報告されました。

普及センターでは、部会の土壌対策班と連携し、土壌分析に基づく施肥診断や夏季の太陽熱土壌消毒、緑肥による除塩対策などについて支援していきます。

○JA新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と総会が開催されました。
令和 7 年3月24日
仙台農業改良普及センター



令和 7 年 3 月 14 日、J A 新みやぎあさひなねぎ部会の出荷反省会と通常総会が開催され、部会員 30 人が参加しました。

出荷反省会では、J A から令和 6 年産ねぎの出荷実績や販売実績について報告がありました。また、検

品時の課題事例などを共有して、部会全体の品質向上への意識を高めました。

普及センターからは、今年度を実施した「産地維持に関する営農意向アンケート調査」の結果を説明しました。本調査は、今後予想される部会員の高齢化による産地縮小に対して、部会員一人一人の意向を把握し、産地維持に向けた課題を検討していくことを目的に実施しました。

出荷反省会後に開催された通常総会では、今年度の事業報告や来年度の予算案などについて協議が行われ、原案どおり可決されました。

今後も普及センターでは、J Aや部会と連携しながら、あさひな地区のねぎの生産振興を支援してまいります。

○たまねぎ晩秋まき栽培の定植が進んでいます！

令和 7 年3月27日

大河原農業改良普及センター



大河原管内では、水田を活用した露地園芸作物としてたまねぎの生産を推進しています。普及センターはJ Aみやぎ仙南と連携し、本年度のプロジェクト活動として、仙南地域のたまねぎ生産拡大に向けた生産支援に取り組んでいます。

令和 7 年 3 月中旬より、管内ではたまねぎ晩秋まき栽培の定植が進んでいます。晩秋まき作型は晩秋（11 月下旬）に播種し、冬季はハウス内で育苗し、3 月に露地は場に定植する作型です。ほ場栽培期間が 3 月～ 7 月の半年となるため秋冬作に他の作物を生産できること等がメリットであり、大河原管内では 5 戸の生産者が取り組んでいます。

晩秋まき栽培の収穫時期は通常の秋まき栽培よりも遅い 6 月末を見込んでおり、収量確保のためには梅雨時期の病害虫防除が重要です。

普及センターでは今後も各生産者への生産支援を継続し、地域一体となってたまねぎの生産拡大に取り組んでまいります。

○たまねぎに関する動画「環境にやさしい栽培編」を公開！

令和 7 年3月27日

大河原農業改良普及センター



大河原管内の J Aみやぎ仙南と大河原農業改良普

及センターで構成するみやぎ仙南たまねぎ生産推進協議会では、グリーンな栽培体系への転換サポート事業を活用し、たまねぎ栽培に関する環境にやさしい栽培技術としてリビングマルチ、省力化に資する技術としてドローンによる農薬散布を取り入れた「グリーンな栽培体系」の実証と普及に取り組んでいます。

グリーンな栽培体系の普及拡大に活用するため、「たまねぎの環境にやさしい栽培編」の動画資料を作成しましたので、ぜひご活用ください。

○たまねぎの環境にやさしい栽培編 [動画]

<https://www.pref.miyagi.jp/soshiki/ok-nokai/tamanegi2.html>

(大河原農業改良普及センターの HP で公開)

④収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○令和 6 年産稲作の総合検討会が開催されました

令和 7 年3月3日

登米農業改良普及センター



令和 7 年 2 月 5 日に J Aみやぎ登米迫町域肥料・農薬研修会が、2 月 14 日には J Aみやぎ登米豊里稲作部会の実績検討会がそれぞれ開催されました。

迫町域肥料・農薬研修会では、迫稲作経営部会の会員を中心に、部会員以外からも多くの生産者が参加しました。はじめに、J A全農宮城県本部米穀部から宮城県産米の販売情勢について情報提供いただき、令和 6 年産の米価は大幅に上昇したこともあり、販売状況や販売先の需要品種等の情報について生産者も関心が高い様子でした。

豊里稲作部会では、ササニシキの栽培に意欲的に取り組んでおり、生育調査結果と部会で作成した栽培ごよみを照らし合わせながら生育経過や収量品質の確認を行いました。

普及センターからそれぞれの会場で、令和 6 年産の稲作の総括と令和 7 年産の作付けのポイントとして、倒伏要因の考察やばか苗病対策などについて説明しました。

普及センターでは、今後も登米管内の水稻の収量と品質の向上を目指した取組について支援を行ってまいります。

○高品質大豆生産を目指す！組合員一丸で次年度に向けた課題を洗い出し

令和 7 年3月13日

美里農業改良普及センター



大崎市田尻地域で大豆生産を行っている大嶺二生産組合を対象に、これまで大きな課題となっていた帰化アサガオ類などの雑草問題を克服するとともに、生産性を向上させるため、令和7年3月7日に栽培講習会を開催しました。

講習会では、令和6年産の大豆の作柄を振り返り、雑草防除に関する様々な対策について確認した後、組合の代表的なほ場について、事前に実施していた土壌分析結果を踏まえた施肥設計について参加者と共に検討しました。

組合の方々の意欲は高く、取り組めそうな技術には積極的に挑戦したいという意向が示され、事業により導入予定の機械を用いて効率的な雑草対策に取り組んでいくことになりました。

普及センターでは、引き続き関係機関と連携しながら組合の活動を支援し、管内の大豆の作柄向上を目指していきます。

○今年の水稲作業に向けて、育苗の説明を行いました

令和7年3月21日

登米農業改良普及センター



3月14日、J Aみやぎ登米主催による、東部エリアの生産者を対象にした水稲講習会が開催され、生産者約40名が出席しました。

普及センターからは、健苗づくりのポイントと合わせ、今年の育苗期間も高温が予想されていることから、高温で発生しやすい病害や障害の対策、温度を上げないためのハウスの換気方法等を説明しました。

他に、資材メーカー4社の担当者から、苗の被覆資材や除草剤の特徴、効果的な使い方などの説明がありました。

生産者は熱心にメモを取り、講習会終了後も説明者に質問する姿も見られるなど、米づくりに対する意欲が感じられました。

普及センターでは、引き続き、良質米生産に向けた

水稲栽培に対する支援を行っていきます。

○令和7年産麦現地検討会が開催されました

令和7年3月27日

大河原農業改良普及センター



令和7年3月25日にJ Aみやぎ仙南主催の令和7年産麦現地検討会が開催されました。午前は(有)サンファーム葦神ほ場、午後は(株)館島田ファームDeroほ場で開催され、麦類栽培者がそれぞれ10名程度集まり、良質麦生産に向けた検討が行われました。

現地検討会では、普及センターから気象経過と麦類生育調査結果に基づいた生育状況の説明と減数分裂期、出穂期等の生育予想、追肥や病虫害防除などの今後の管理についての説明を行いました。続けて、J Aみやぎ仙南から新しい赤かび病防除の殺菌剤の紹介も含めて赤かび病防除体系や除草剤の使用時期などの説明がありました。

参加者からは、麦踏み、追肥、赤かび病防除の時期についての質問があり、それぞれの適期の確認を行いました。

今年も実り多い麦秋を迎えられるよう、栽培者と生育状況を把握、情報共有しながら栽培技術のサポートを行ってまいります。

○「吟のいろは」栽培研修会が開催されました

令和7年3月28日

美里農業改良普及センター



宮城オリジナルの酒米品種「吟のいろは」について、令和6年産の作柄を振り返って次作に生かすため、3月18日に県みやぎ米推進課の主催で「吟のいろは」の栽培研修会が開催され、生産者や関係機関など約20名が出席しました。普及センターからは今年度の生育の経過を中心に説明をし、産業技術総合センターからは玄米品質や酒米としての分析結果について説明がありました。令和6年産の特徴としては、やや硬い米であるものの溶けやすい傾向にあるとのことで、高温で経過した天候にも関わらず高い1等米比率となっており、継続して安定した需要が見込まれると期待が高まっています。

同日には普及センター主催で松山町酒米研究会の

メンバーを対象に、今年度の「吟のいろは」等の酒米の調査結果の振り返りと次年度に向けた検討会を開催しました。普及センターからは関係機関の協力により生育調査等を実施でき、次年度につながる結果が得られたことなどを説明しました。参加者からはメーカーと連携した次作の試験設計に関する意見等が出されました。

普及センターでは、引き続き酒米の品質安定化や生産性向上に向けて研究会の活動を支援していきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○「やくらい土産センター・山の幸センター活性化研修会」(売り場環境改善編)を開催しました 令和 7 年3月10日 大崎農業改良普及センター



加美町の葉菜山にある「やくらい土産センター・山の幸センター」は農事組合法人さんちゃん会が運営する農産物直売所で、平成6年のスタート以来、中山間地である当地域の活性化に寄与してきました。しかし、ここ数年、売り上げが減少傾向にあるため、普及センターと加美町では、経営改善に向けた様々な支援を行っています。

その一環として、POP 広告クリエイターとして活動されている経営コンサルティング波多野事務所の波多野ゆか氏を講師にお迎えし、3回にわたり「より魅力的な売り場づくり」をテーマとした研修会を開催しました。

令和7年2月26日には3回目の研修会を開催、参加者全員で売り場を見回り、良いところ、改善が必要などところについてグループ討議を行いました。

今後は一連の研修会の成果をもとに、魅力的な売り場づくりを行っていきます。

○手作り味噌にチャレンジ 令和 7 年3月12日 大崎農業改良普及センター



昔は自分の家で作ることが日常だった味噌ですが、発酵文化が根付く大崎地域でも手作り味噌を見ることは少なくなりました。大崎市内で自家栽培の大豆と米を使った味噌を製造販売し、味噌づくりのワークショップも行う坂井農産の坂井悦子さんは、地域の方々や子供たちを対象に、冬期間味噌づくりの指導に当たっています。

令和7年3月3日、大崎市鳴子温泉の鬼首地区公民館で市民向けの手作り味噌講座が開かれました。今年で12回目となる味噌づくり講座は、公民館主催の行事で、毎年楽しみにしている参加者が多く、ベテランから今年初めてという初心者まで男女27名が参加しました。

あらかじめ蒸した大豆を丁寧につぶし、つぶした大豆と麴と塩をしっかりと混ぜ合わせる作業は体力が必要ですが、参加者は疲れも見せず楽しそうに作業を行っていました。混ぜ合わせた後は、各自味噌樽に移し持ち帰りました。2か月後、5か月後に手入れをして、およそ10か月後に食べられるようになります。

普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援してまいります。

○農村生活研究グループの総会が開催されました 令和 7 年3月25日 大崎農業改良普及センター



令和7年3月13日、大崎生涯学習センター「パレットおおさき」で、令和7年度大崎地域農村生活研究グループ連絡協議会の通常総会が開催されました。新年度の計画として、会員相互の連携・交流や農村文化の継承等に関する活動のほか、「世界農業遺産 大崎耕土」の取組に対する参画を確認しました。

総会後さっそく、「世界農業遺産 大崎耕土ブランド認証制度について」と題し、大崎地域世界農業遺産推進協議会事務局より講演をいただきました。1市4町にまたがる大崎耕土が世界農業遺産に認定されたポイントについて、歴史や伝統文化、生物多様性、

景観などわかりやすくお話いただき、「大崎耕土」ブランド認証の取得について説明を受けました。参加者からは、伝統的な水管理やブランド認証の申請に関する質問などが出されていました。

普及センターでは、これからも農村女性の活動を支援していきます。

○小牛田地域精進料理の会が定例会を開催しました

令和 7 年3月31日

美里農業改良普及センター



地域に伝わる精進料理を受け継ぎ、伝承する活動を行っている「小牛田地域精進料理の会」が、令和 6 年度第 3 回定例会を 3 月 11 日に美里農業改良普及センターで開催しました。

今回は会員等 5 人が、「呉汁（すりつぶした大豆にだんこんやにんじん、しいたけ等の様々な具材を加えてつくる味噌汁）」や「こくしょう（手作りのごま豆腐に出汁で煮た干しいたけや野菜を添え、くずあんをかけたもの）」、「高野豆腐の味付け揚げ」等の料理の実習を通じた伝承に取り組みしました。

実習に先立って、会員から「『高野豆腐の味付け揚げ』は、煮含めた高野豆腐を揚げる際に水分を切り過ぎるとモソモソした食感になってしまうため、少し水分を残して衣をつけると良い」等のアドバイスがあり、注意しながら約 2 時間で手際よく 7 品を完成させました。

料理は「皿」や「坪」、「汁」といったそれぞれ決まった食器に盛り付けて配膳して試食を行いました。会員及び参加者は、各家庭での精進料理の実践状況や令和 6、7 年産の主食用米の生産・販売等について情報交換を行いながら料理を味わっていました。

普及センターでは、引き続き地域伝統食の伝承や普及活動の支援を行っていきます。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○令和7年サンサンメイトの研修会が開催されました

令和 7 年3月13日

巨理農業改良普及センター



名取市の野菜直売グループ「サンサンメイト」では、毎月定例会を行い、会員全員が集まる情報交換と打合せを行っています。3 月 5 日に開催された定例会に合わせて、これから各種野菜の作付けが始まること、農薬登録の作物分類が最近変更されたこともあり、当普及センターから野菜の「農薬登録作物区分」について情報提供する研修会が開催されました。

研修会では、基本的な農薬の使用方法を確認した後、トマトとミニトマト等の身近な例を出しながら、出荷している野菜の農薬登録作物区分について、農薬適正使用に関するパンフレット 3 種類を用いて研修しました。また、最新の分類表を用いて出荷している野菜の使用区分を確認しました。最も出荷の多い「非結球アブラナ科葉菜類」については、登録のある農薬についても数剤紹介し、農薬のローテーション散布の提案を行いました。

研修後には、農薬を混用する場合の順番や、農薬を用いない以外の各種病害虫対策について幅広く質問があり、活発な研修会となりました。

当普及センターでは農薬の適正使用を含め、栽培技術や病害虫防除等について引き続き支援していきます。

○グリーンな栽培体系への転換サポート事業検討会が開催されました

令和 7 年3月11日

石巻農業改良普及センター

加美町の南鹿原地区と上区・城内地区では、令和 4 年度から「グリーンな栽培体系への転換サポート事業」を実施しています。有機物を活用した化学肥料の削減、中干し延長による温室効果ガスの削減の環境負荷軽減技術と、乗用除草機やドローン追肥などの省力化技術に取り組み、最終年である本年度は概ね想定どおりの効果を得ることができました。普及センターでは、今後も農協等と連携し、これらの技術を組み合わせたグリーンな栽培体系の普及拡大を支援していきます。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>

〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亘理>

〒989-2301
亘理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>

〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>

〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>

〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>

〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>

〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>

〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>

〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



*各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.218

発行日:2025 年4月30日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp